

河口の通水は確保されている

■七北田川河口は海とつながっている



(Fig.1 七北田川河口)

前回の調査（8月15日 レポートNo.451参照）時は河口に砂が堆積しつつも、まだ七北田川河口は閉塞していなかった。その後、宮城県土木事務所からとして8月18日に河口が塞がっているとの報道があった。宮城県河川課に問い合わせたところ、

8月18日（月）閉塞を確認

8月20日（水）河道掘削

8月21日（木）再度閉塞を確認

8月23日（土）河道掘削

8月25日（月）再度閉塞を確認

9月 2日（火）降雨

9月 3日（水）閉塞解消 「まとまった降雨により河道部の閉塞が解消したと考えられる」との回答をいただいた。七北田川河口は2011年の8～9月にかけても閉塞しており、このときは9月21日の台風の際、かつての七北田川の流路であった潟湖が再び河道に変化し、新たな河口ができている。（レポートNo.13～21参照）。今回の調査では、七北田川から海への通水は引き続き確保されていた（Fig.1 Fig.2）。ご多忙の中、問い合わせにご回答いただいた宮城県河川課様に厚く御礼申し上げます。



(Fig.2 七北田川河口)

■多くのカキの死滅

導流堤には多くのカキが付着しているが、今回の調査では目につく範囲のカキが死滅していた（Fig.3）。2023年には県漁連石巻支所において、高水温で水揚げしたカキの4割近くが死滅という報道があった。今年の厳しい猛暑でカキが死滅した可能性が考えられる。



(Fig.3 死滅したカキ)

Fig.3の中央付近（赤囲い）には、殻だけになったカキの中に潜むカニの鉗脚（ハサミ）が見えている。

（佐藤 賢治）